

夫婦のペアレンティングに関する文献検討

永井たつ代¹⁾・富岡 美佳²⁾

A Literature Review of Married Couple Parenting

Tatsuyo Nagai and Mika Tomioka

要旨

目的：目的：ペアレンティングに関する文献を概観し、妊娠期から乳児期の子育てをしている産後1年までのペアレンティングに関連する要因を検討する事を目的とした。

方法：医中誌Web版を用いキーワードを「ペアレンティング」で原著論文を検索した。妊娠期から乳児期の124件のうち2016年から2020年までの78件を分析対象とした。

結果：内容分析の結果、【夫婦の関係性】、【ペアレンティング教育】、【ペアレンティングに影響する促進因子】、【母親としての自信をもつ】、【ペアレンティングに影響する阻害因子】の5つのカテゴリーに分類された。【夫婦の関係性】は、〈親密さ〉〈役割分担〉〈コミュニケーション〉が関連し、【ペアレンティング教育】では、〈夫婦の関係性〉〈育児の知識・情報〉〈母親としての自信〉の内容があった。【ペアレンティングに影響する促進因子】では、〈子どもへの関心〉〈父親の育児参加〉〈サポートの有無〉があり、【母親としての自信をもつ】では、〈母親としての自信〉〈肯定する〉が関連していた。一方、【ペアレンティングに影響する阻害因子】では、〈妊娠中の不安〉〈父親役割への不安〉〈育児ストレス〉があった。

考察：ペアレンティングには夫婦の関係性が関連しており、父親の育児参加への支援や母親への肯定的な支援が必要であり妊娠中から、ペアレンティングが促進する働きかけが必要である。

キーワード：ペアレンティング，夫婦

1) 姫路大学大学院 看護学研究科 博士前期課程

2) 姫路大学大学院 看護学研究科

I. はじめに

我が国の2019年の人口動態統計¹⁾によると、日本人の国内出生数は86万5,239人であり、1899年の統計開始以来過去最少を更新した。くわえて、女性の社会進出や晩婚化に伴い、合計特殊出生率も1.36と前年より減少した。また周産期医療の現場では、出産の高年齢化や高度生殖医療技術による妊娠、疾患を合併しているハイリスク妊婦、妊娠期から支援を必要としている特定妊婦が増加している。

2010年には、周産期医療システムが構築され、妊娠中からリスクの高い妊婦は、地域周産期母子医療センターや総合周産期母子医療センターなど高次医療施設が担い²⁾、リスクの低い妊婦は一般病院や診療所が担うという周産期医療体制が整った。

日本産婦人科医会の2016年調査³⁾によると、取扱い分娩数の割合は周産期母子医療センター25% (総合8%, 地域17%), 診療所48%, 一般病院27%, となっており、分娩数の約7割は、一般病院や診療所が担っている。一般病院や診療所では、妊娠期から出産後一カ月健診までの夫婦との関わりが多く、母親は出産後一週間足らずで退院するため、医療職者が支援できる時間には限界がある。日本では里帰り出産や出産前後に実母や姑にサポートしてもらうことは一般的であるが、子どもを育てていく過程において、夫婦が協力し、お互い親として成長していくことは重要である。このように、夫婦のペアレンティングには、医療職者の妊娠期からの支援が重要となる。初めて子どもの親となる人々は未知の体験に不安を感じがちであり、すべての親が「親になる」「親として育つ」のを社会全体で支えていくことが求められている⁴⁾。女性にとって、出産・育児は人生

における大きな出来事であり、身体的な変化のみならず社会的にも心理的にも大きな転換期となる。親になる夫婦の多くは生活上の変化への適応に困難を感じ、親への移行期はストレスフルな時期とされているが、夫婦にとって、親になることは子どもが生まれてから始まるのではなく、すでに妊娠したときから始まっている。そのため、親になる準備や子育てに必要な知識や情報、スキル、親として子どもを育てるペアレンティングの重要性が注目されている。そこでペアレンティングに関する文献から、医療職者が最も関わることのできる、妊娠期から乳児期の子育てをしている産後1年までのペアレンティングに関連する要因を検討することを目的として、文献検討を行った。

II. 方法

医中誌Web版を用い、キーワードを「ペアレンティング」で原著論文を検索した結果、483件であった。そのうち、特集・死産を除き、期間を妊娠期から乳児期の子育てをしている産後1年までに限定した124件のうち、「健やか親子21 (第2次)」がスタートした翌年の2016年から2020年までの78件を分析対象とした。

III. 結果

1. ペアレンティングの関する文献の年代別の検討 (図1)

検索結果483件のうち期間を乳児期の子育てをしている産後1年までに限定した124件の文献を年代別に分析した結果、年代は2000年～2020年であった。文献数は、2017年以降増加し、2017年が19件と最も多かった。(図1)

年代別文献数 (n=124)

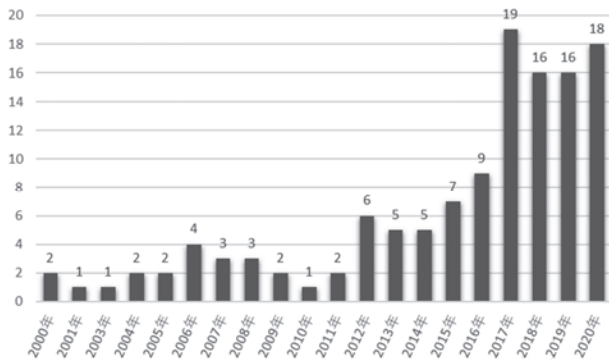


図1 年代別文献数

2. ペアレンティングに関する文献の内容分析 (表1)

2016年から2020年までの78件の文献からペアレンティングに関連する要因を抽出し、内容分析を行った。その結果、5つのカテゴリーと26のサブカテゴリーに分類された。内容を表1に示す。カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〈 〉と表記する。

以下 () は表1の文献リスト番号を用いた。

1) 【夫婦の関係性】

夫婦の関係性における〈親密さ〉においては、

表1 ペアレンティングの関連要因に関する文献

カテゴリー	サブカテゴリー	ペアレンティングの関連要因	文献リスト番号
【夫婦の関係性 (25)】	〈親密さ (3)〉	妻との関係欲求や子供への接近感情が高いほど、肯定的な親としての変化が多い	26
		妊娠期における良好な夫婦関係	53
		父親役割獲得不全への影響因子に働きかけて父親役割獲得を促す家族支援が必要である	66
	〈コミュニケーション (4)〉	夫婦の関係性への関心を持つこと、夫婦のコミュニケーションの重要性	25
		育児分担に関するパートナーとのコミュニケーション不足は母親役割の自信との間に負の相関がある	39
		兄の出来事を同じように体験しているか、一方が体験したことをコミュニケーションをとり共有している	46
	〈役割分担 (5)〉	妊婦からの関わりが多いほどその夫・パートナーの親性の発達を促進する	50
		【夫婦で協働した育児の仕組みをつくる】ろう	35
		【育児や家事の協働を目指す過程での負担感】というストレス	41
		妊娠中の役割調整	52
		共働き母親の生きがい感低下群は、子育てと仕事の両立の困難なネガティブ状況を受容し 対処する程度が低い	69
	〈再構築 (3)〉	父親の家事育児参加	72
		子どもができたことを機に夫婦以外の外部環境との関係性の再構築の必要性	29
		【夫や家族との相互作用と関係の再構築】 親子関係と夫婦関係の相互作用	63 71
	〈夫婦の認識 (2)〉	将来の経済的な問題に向かう夫と依然妊娠と向き合っている自分とに齟齬	38
〈パースレビュー (2)〉	妻と夫の受け止めや背景にあるものの違いや夫婦の認識や受け止めのずれ	45	
	夫婦一緒に出産の振り返りを行うことによって父親意識が高まる	18	
〈父親役割 (2)〉	出生後に看護者と夫婦と一緒にパースレビューすることの重要性	24	
	【父親としての葛藤の調整】【夫婦関係における寄り添いと協働】【父子関係における主体的な関わりと責任】	61	
〈協同体験 (1)〉	妻との関係が反映されており、夫婦関係が父親役割において重要	67	
	二人で乗り越えることで絆を強め、妻への尊敬や愛情が深まるという夫役割の意識が急激に高まる	16	
〈親になるイメージ (2)〉	《子どものいる生活や親になることを夫婦でイメージする準備行動》	48	
	夫婦共に親になるイメージが膨らむ介入	56	
〈夫婦の危機回避 (1)〉	母親との関係性をアセスメントし、夫婦で危機回避できるように調整	60	
【ペアレンティング教育 (18)】	〈育児の知識・情報 (7)〉	親意識は、育児に必要な知識を習得して高まった	12
		子どもの誕生前に子育ての知識を得ることは、父親の子育てに対する思いが肯定的に変化する可能性がある	13
		具体的な育児技術、子どもの成長・発達の経過の見通しも含めた正しい情報を産前から知ることができるような関わりが重要	22
		夫婦間の育児に対する意識や知識を確認し、夫婦が互いに協力して育児を取り組めるよう妊娠中及び入院中の関わりが必要である	54
		子どもを安全に育てることができる最低限の知識や育児行動は必要である	58
	安心して妊娠・出産に臨める社会を作るために、妊娠前の人達に親準備性を育む教育活動を行うこと	65	
	妊婦自身が情報を集め、必要な情報を取り出せるよう支持しながら妊婦の母親としての成長を促す援助を検討することが必要	73	
〈夫婦の関係性 (5)〉	行動論的知識の獲得やビデオ評定では今回効果がみられた プログラムを実施した結果、①精神的健康度の改善、②子育て技術の向上、③特性不安の低減などに効果があることが示された	4 7	

カテゴリー	サブカテゴリー	ペアレンティングの関連要因	文献リスト番号
【ペアレンティング教育 (18)】	<夫婦の関係性 (5) >	互いに担う役割などを夫婦間で共有できる場を設ける支援が必要	27
		コペアレンティングを向上させるための夫婦教育プログラ介入が育児と子への適応に関してポジティブな効果をもたらすことが明らかになった	47
		妊娠中に初めて親となる夫婦に対して行う親となるための講座は、親役割の獲得を促進する	55
	<母親としての自信 (1) >	Maternal Confidenceを育む看護介入プログラムは、母親の効果的な反応や肯定的な感想がきかれている	5
	<父親教育 (3) >	出産前教室の受講は初産婦の夫が親となる心の準備を整えるために効果的であり、さらに乳児とその親が関わることで乳児への否定的感情を低下させる	8
		父親への教育は、乳幼児期の父親役割を促す支援として導き出され、妊娠中から始めることで効果を期待でき、親への移行期は継続支援が必要である	15
		パートナーが里帰りをする男性に対しては、育児に関する知識の提供や育児家事行動について考える機会を与えることが重要である	20
<精神療法 (1) >	親向け集団精神療法プログラム	3	
<育児技術 (1) >	赤ちゃんの寝かしつけ準備講座は、「妊娠期からの教材として使えそう」などの<満足>が<自信>に比べそれぞれ有意に高かった	6	
【ペアレンティングに影響する促進因子 (15)】	<子どもへの関心 (6) >	子どもと直接的な関りによって父親を実感する	23
		切迫早産妊婦の子どもを守りたいという思いが、親としての成長を後押ししている	31
		家族を含めて関わり、兄や育児に関心を持ち母親になる心身の準備を促す	42
		兄に対して【今後の願いをもつ】と同時に、【親としての責任感をもつ】決意	49
		母子間の愛着が促進されることにより、母親は母親としての自己を受け入れて成長し、様々な課題に自己の力で対応できる力を付ける	64
	父親が父親であることを実感するための時間軸は現在だけでなく、過去や未来へも渡っている	75	
	<父親の育児参加 (3) >	父親が希望する育児参加を支援するためには、社会環境の整備の他に父親の対処行動の特徴に応じた支援が必要	19
父親への情報提供が充足することは、父親の育児に対する考えを変え、母親主体の子育てという考えから夫婦協働の子育てという考え方に変化を与えるきっかけになる	28		
父親の親意識の向上や育児参加を推進することにより、家族形態にかかわらず、父母ともに幸福感を高める	78		
<医療者のサポート (3) >	若年母の特徴に沿いながら妊娠経過を逸脱しないような身体作りや親役割の自覚への支援など多職種との連携強化が示唆された	11	
親となるプロセスの中心的現象は【同一助産師と過ごす濃厚な時間の流れの中での主体性の育ち】	34		
親の現状を危惧し、社会全体で「親育て」に関わる必要性	77		
<サポートの有無 (1) >	周囲からのサポートは子どもに対するポジティブ・ネガティブ感情と関係し、それらの感情が産後のパーソナリティ変化や母性形成と関係する	37	
<親の養育環境 (2) >	理想の父親像モデルには実父の影響が大きい、他にもさまざまなモデルに影響される	21	
父親の親との親密性、父親の父親との良好な関係、子ども時代の熱中経験、父親自身の受容的愛着と関連していた	74		
【母親としての自信をもつ (12)】	<母親としての自信 (7) >	子供の気質特性を考慮したベビーマッサージは母親が自分の子供を理解するのを助け、子育てと積極的な子育て行動について母親に肯定的な意識をもたらす	2
		育児中の母親が自分の人生において母親となったことの意味を認識し、ネガティブな感情や不安をありのまま感じる。また、それは母親の誰もが経験することと認識し、自分を労うことが必要	32
		わが子との関りを通して不安や戸惑いが喜び、自信へと心情が変化していく	33
		兄が満足したと思える体験過程を通して母親役割に対する自信が獲得されていた	40
		妊娠中に「その人なりの母親としての自己像を確立すること」を目指した看護援助を実施し、産褥期における母親役割獲得プロセスを円滑に移行させる効果	44
		母子の距離を近づける出来事を母親が体感できるような支援の必要性	59
	10代の母親たちは自らに母親役割を課し、母親として他者と関わっていくことにより、母親としての自己認識を深め、そのことで青年期の発達課題を達成する	70	
<肯定する (5) >	現状の自分の頑張り気づけた場合は《気持ちの切り替え》ができ《子どもの対応への自信》となっていた	1	
双子の妊娠・出産・育児を肯定的に捉えることができるような介入が重要	30		
育児を語りによって肯定的に意味づける	43		
育児を獲得することで自己肯定感が上昇し、親性を獲得していた	51		
「母親の力を信じる」「母親の自己効力感を高める」といった【母親の潜在的な力を引き出す支援】を行う	57		
【ペアレンティングに影響する障害因子 (8)】	<妊娠中の不安 (4) >	高度生殖医療を利用した妊産婦は妊娠中から不安な状態が強く、母親役割の獲得に遅れがちである	9
		ピア・サポートを活用した看護支援による産後うつに対する効果が示された	10
		(1) 妊娠への自信の無さ、(2) サポート不足に加え、より個別で継続的な支援が必要	36
	孤独感が高い妊婦は母性役割の同一化が低かった	76	
	<父親役割の不安 (2) >	初めて父親となる人は妻の妊娠がわかって嬉しいと思う気持ちの反面、新しい父親という役割にどう対応していけばよいのかという戸惑う気持ちが確認された	14
「妊娠してから生まれるまでの期間」では、「何をしたいかわからなかった」「妻への接し方に困った」が多かった	17		
<育児ストレス (2) >	夫婦の親役割達成感には共通して夫の育児関与度および妻の育児ストレスが関与していた	62	
産後の母親の育児ストレスへの支援として、母親の年齢や子どもの性別にも着目する	68		

n = 78 () 内は文献数

妊娠期からの良好な夫婦関係 (53) や妻との関係欲求や子供への接近感情が高いほど、肯定的な親としての変化が多い (26)。また夫婦関係は、〈父親役割〉にも関連しており、夫婦関係が父親役割において重要であること (67) や夫婦関係における寄り添いと協働 (61) が父親役割を促進し、父親役割獲得不全の場合は、影響因子に働きかけて父親役割獲得を促す家族支援が必要であると述べている (66)。〈コミュニケーション〉においては、妻からの関りが多く、胎児情報の提供や、出産・育児準備を一緒に行いコミュニケーションを通して情報を共有することは、夫婦の協働的作業とも関連する。また良好なコミュニケーションは、夫の親性の発達を促進し (46,50)、育児分担に関するパートナーとの役割分担についても話合うことが重要である (39)。

〈役割分担〉については、妊娠中から役割調整を行い、父親も家事育児に参加すること (72)、夫婦で協働した育児の仕組みをつくることが大切であり (35,69,72)、夫婦関係の他に親子関係や周囲との関係性を再構築すること (29,63,71) が述べられていた。また〈夫婦の認識〉のずれが大きくなる前に、お互いの思いを伝達すること、親役割観の見直し、育児観の尊重、不満な思いを伝え話し合うことが大切である (38,45)。

〈共同体験〉においては、立ち会い出産を経験し、子どもが生まれる瞬間に向けて、二人で乗り越えることで絆を強め、妻への尊敬や愛情が深まるという夫役割の意識が急激に高まる機会となっていた (16) こと、出産後の〈バースレビュー〉では、夫婦一緒に、その体験の振り返りを行うこと (18,24) が重要である。

また、子どものいる生活や親になることを夫

婦でイメージする (48,56) などの〈親になるイメージ〉や具体化する準備行動、〈夫婦で危機回避〉できるように調整する (60) ことの重要性であった。

2) 【ペアレンティング教育】

〈育児の知識・情報〉に関するものが最も多く、産前から親準備性を育む教育活動の必要性 (65) や具体的な育児技術、子どもの成長・発達の経過の見通しも含めた正しい情報を産前から知ることができるような関わり (22)、妊娠期では育児に必要な知識の習得 (12,13,54,58,73) が親役割獲得に有効であった。夫婦で育児に関する知識を得ること (54) や夫婦で子育てをしている感覚をもつことは、父親の子育てに対する思いが肯定的に変化すること (26) が述べられており、〈育児技術〉の内容とも関連していた。産前からの準備は有効性がある (6) ことや〈父親教育〉においても、産前から父親に知識や技術を提供することは、夫が親となる心の準備を整えるために効果的であった (8,15,20)。

〈夫婦の関係性〉に関しては、両親学級や出産前プログラムに夫婦で参加することにより、親になる準備や夫婦間のコミュニケーションの重要性を学習する機会を提供することの有効性であった (4,7,27,47)。

〈母親としての自信〉は、妊娠期から母親が母親になる過程における介入プログラムを実践することは、母親に肯定的な感想がきかれている (5)。

3) 【ペアレンティングに影響する促進因子】

〈子どもへの関心〉に関するものが多く、母親の子どもを守りたいと思う気持ちや子どもへの愛着や関心は、親になる準備を促し (31,42,49)、父親へも子どもに接触する機会

を与えることが父親の父性形成に有効である(75)。**〈父親の育児参加〉**もこれに関連しており、父親が育児参加できるような情報提供や環境支援(19,28)は、父親の育児に対する考えを変え、夫婦が協働して子育てをすることに繋がり(28)、夫婦の幸福感を高める(78)。

〈親の養育環境〉では、父親と実父との関係性が良好であることが、父親自身の受容的愛着と関連していた(20,74)。

〈サポートの有無〉では、妊娠中から出産後の周囲のサポートの有無は、母親の自己効力感と子どもに対する感情に関係しており(37)、そのためサポートのない親に関しては、助産師をはじめ多職種連携(11,34)などの**〈医療者のサポート〉**が重要である。

4) 【母親としての自信をもつ】

親が児と触れ合うことで子どもを理解し、母親役割獲得の動機付けになること(2,59)や、育児不安や戸惑いは母親の誰もが経験することと認識し(32,33)、児が満足したと思える体験(40)や母親が自分の成長を自覚し、自信をもつことが**〈母親としての自信〉**につながる(32,44,70)という内容であった。**〈肯定する〉**もこれに関連しており、妊娠・出産・育児を肯定的に捉えることは自己肯定感が高まるため、母親が肯定的に捉えることができるような介入が重要である(1,30,43,51,57)。

5) 【ペアレンティングに影響する障害因子】

不安や育児ストレス関するものが多かった。**〈妊娠中の不安〉**は、母親役割の獲得の遅れが生じ(9,10,36,76)、**〈父親役割への不安〉**は妻の妊娠がわかって嬉しいと思う気持ちの反面で、何をしてよいかわからない、父親としての役割にどう対応してよいか戸惑う(14,17)などの内容であった。また、**〈育児ストレス〉**は、

親役割達成感に影響を及ぼすこと(62)や母親の年齢が若いほどストレスが高いことが明らかとなっており、育児ストレスの支援として、母親の年齢や子どもの性別についても着目することが大切である(68)。

IV. 考察

1. ペアレンティングに関する年代別文献数

文献検討の結果、2017年以降の文献数が増加していた。これは「健やか親子21(第2次)」が2015年からスタートしており、「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」が基盤課題となっている影響が考えられる。

「健やか親子21」とは、平成13年(2001年)から開始した、母子の健康水準を向上させるための様々な取組を推進する国民運動計画である⁵⁾。

平成27年度(2015年)からは、現状の課題を踏まえ、新たな計画が始まっており、第1次(2000年~2014年)の達成状況や現状における課題を踏まえ、指標の見直しを行い、「すべての子どもが健やかに育つ社会」の10年後の実現に向け、3つの基盤課題と2つの重点課題を設定された。3つの基盤課題のひとつが「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」であり、妊娠・出産・育児期における母子保健の充実を図るための様々な取組みがなされ、スタートした翌年から文献数が増加したと考えられる。

2. ペアレンティングに関連する要因

妊娠期から乳児期の子育てをしている産後1年までのペアレンティングに関連する要因としては、夫婦の関係性やコミュニケーション関するものが多く、親密度が高く、妊娠中から産後の役割分担を調整している夫婦は、ペアレンティングが良好であることが明らかになっていた。

野崎らは、「妊婦からの関わりが多いほどその夫・パートナーの親性の発達を促進しており、妊婦からの胎児情報の提供や出産・育児準備を一緒に行う関わりによって胎児に関心が向き、親となる実感、養護する責任感が芽生え、親性が育っていく⁶⁾」と述べており、子どもができたことを実感しにくい夫に対して、妻からの関りやコミュニケーションを通しての情報提供が父親役割獲得のきっかけになっていると考えられる。また出産に関して松田は「夫立ち会い出産を体験することで得られる父親としての思いの変化には、妻を介した間接的な子どもとの関係性から出産後の直接的な子どもの交流によって子どもの存在を受け入れていくが、親としての嬉しさや責任感など様々な思いの混在のなかで、言葉に出来ない情動を得ることによって、父親になる思いを高めていく⁷⁾。」と述べており、船越らは「子どもが生まれる瞬間に向けて、二人で乗り越えることで絆を強め、妻への尊敬や愛情が深まるという夫役割の意識が急激に高まる機会となっていた⁸⁾。」と述べている。妊娠中の妻からの情報でしか感じられなかった子どもへの関りが、妻と一緒に乗り越える出産の体験を通して夫役割を果たし、誕生した子どもと直接かかわることで父親になる思いが高まると考えられる。出産後の育児に関して日本は、里帰り出産の慣習があり、父親が妻の出産後すぐに育児参加をする機会がない場合もあるが、溝口らは「里帰り期間中にパートナーと電話で毎日連絡を取ることで、父親の子どもを通しての視野の広がりにつながる⁹⁾」と述べており、パートナーが里帰り期間中の男性に対して、母子への積極的なコミュニケーションを促す支援の重要性を述べている。このことから夫婦間のコミュニケーションが重要であることが分かる。また育児に関する教育では、妊娠中から行うことで心の準備を整えること

や親役割の獲得を促進する効果など、その有効性が明らかになっているが、杉谷らは「夫婦間の育児に対する意識や知識を確認し、夫婦が互いに協力して育児に取り組めるよう、妊娠中及び入院中の関りが必要である¹⁰⁾。」と述べており、貴俵らは「父親への情報提供が充足することは、父親の育児に対する考えを変え、母親主体の子育てという考え方から夫婦協働の子育てという考え方に変化を与えるきっかけになる¹¹⁾。」と述べている。このことから妊娠中から夫婦ともに育児に関する知識や正しい情報を得ることは、ペアレンティングには重要であることがわかる。また父親の育児参加や家事分担などの役割調整も夫婦のコミュニケーションや関係性が良好であると、スムーズであり父母ともに幸福感が高まる。

親役割の獲得について、母親に関しては妊娠中からの教育や夫との家事分担や育児参加などの役割調整だけでなく、育児を獲得することや肯定的に捉えることで、母親の自己肯定感が上昇し、児が満足したと思える体験過程を通して母親としての自信をもつことで母親役割獲得が促進されていた。

一方、ペアレンティングを障害する因子として、母親に関しては、妊娠中の不安や自信のなさ、サポート不足などがある。父親に関してデッカーは「初めて父親となる人は妻の妊娠がわかって嬉しいと思う気持ちの反面、新しい父親という役割にどう対応していけばよいのかという戸惑う気持ちが確認された¹²⁾。」と述べており、妻への接し方への困惑、何をしてもいいかわからないなどの不安があると考えられる。また白石らは「夫婦の親役割達成感には共通して夫の育児関与及び妻の育児ストレスが関与している¹³⁾。」と述べていることから、妊娠中の不安や父親役割の不安、育児ストレスは、ペアレンティングを障害すると考えら

れる。

V. 結論

ペアレンティングに関する文献を概観し、妊娠
期から乳児期の子育てをしている産後1年までの
ペアレンティングに関連する要因を分析した結
果、下記の内容が明らかとなった。

- 1) 2015年から「健やか親子21 (第2次)」がスタートした影響で、2017年以降文献数が増加したと考えられる。
- 2) 内容分析の結果、5つのカテゴリーと26のサブカテゴリーに分類された。
- 3) ペアレンティングの促進因子は、〈子どもへの関心〉〈父親の育児参加〉〈親の養育環境〉〈サポートの有無〉〈医療者のサポート〉であった。
- 4) ペアレンティングの障害因子は、〈妊娠中の不安〉〈父親役割への不安〉〈育児ストレス〉であった。

以上のことから医療職は妊娠中から、夫婦が役割調整や分担ができるようなコミュニケーションの促進を図り、父親が子どもに興味を持つような関わりをすることが大切であり、教育により知識や育児技術を与えることで、不安を軽減し、ペアレンティングが促進するよう支援することの重要性が示唆された。

利益相反:本研究は、申告すべきCOI状態はない。

VI. 文献

【参考文献】

- 1) 厚生労働省 令和元年 (2019) 人口動態統計 (確定数) の概況,

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/index.html> (2021.4.2アクセス)

- 2) 厚生労働省 妊産婦にかかる 保健・医療の現状と関連施策,

<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000479245.pdf>

- 3) 厚生労働省 平成30年衛生行政報告例 (就業医療関係者) の概況,

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/18/> (3月20日最終閲覧)

- 4) 野崎 百合子, 刀根 洋子, 水野 千奈津: 妊娠後期の初妊婦の関わりによる夫・パートナーの親性の発達, 日本ウーマンズヘルス学会誌18 (1), 43-52, 2019

- 5) 健やか親子21 (第2次) ホームページ, <http://su-koyaka21.jp/> (2021.9.10アクセス)

- 6) 野崎 百合子, 刀根 洋子, 水野 千奈津: 妊娠後期の初妊婦の関わりによる夫・パートナーの親性の発達, 日本ウーマンズヘルス学会誌 (1347-5894) 18巻1号 Page43-52, 2019

- 7) Maehara Kunie, Mori Emi, Tsuchiya et al. : 産後1ヵ月の日本人の高齢初産婦と若齢初産婦における母親役割の自信に影響を及ぼす要因 (Factors affecting maternal confidence among older and younger Japanese primiparae at one month post-partum) (英語), Japan Journal of Nursing Science (1742-7932) 13巻4号 Page424-436, 2016

- 8) 宮口 和子: 切迫早産で入院経験がある初妊婦の親としての思い, 青森保健医療福祉研究 (2435-6794) 1巻 Page20-28, 2019

- 9) 嶋岡 暢希: 生後6~8ヵ月の乳児を育てる母親のMastery, 高知女子大学看護学会誌 (1345-0433) 44巻2号 Page56-66, 2019

- 10) 杉谷 香奈, 大宮 優菜, 小磯 瑞実他: 出産前の夫婦の育児に関する知識と考え, 大阪母性衛

生学会雑誌 (0285-3655) 53巻1号 Page42-48, 2017

北海道公衆衛生学雑誌 (0914-2630) 33巻2号 Page63-69, 2020

- 11) 貴俵 怜子, 吉田 倫子: 父親向けの育児情報の実態とその内容分析, 秋田県母性衛生学会雑誌 (1341-5794) 33巻 Page44-51, 2020
- 12) 吉見 雄太, 本田 光: 妻が妊娠期にあったときの夫の気持ちと関わり 男性保健師の経験,

- 13) 阿久津 沙由里, 佐藤 絵美子, 舟木 恵美: 子育て期の父親の想いを明らかにする, 福島県農村医学会雑誌 (0911-9426) 60巻1号 Page51-53, 2020

【対象文献リスト】

NO.	タイトル	著者	出典
1	抑うつ状態にある母親の育児継続に関する心理社会的プロセス (Psychosocial process in mothers with depressed mood who continue to fulfill their parenting responsibilities) (英語)	片山 美穂, 北岡 和代	Journal of Wellness and Health Care (2433-3190) 41巻2号 Page 9-22, 2018
2	育児に及ぼす気質別ベビーマッサージの影響 (Effects of Baby Massage Based on Child's Temperament Characteristics on Child-Rearing) (英語)	Takei Yuko, Terasaki Masaharu, Kadota Masako et al.	Kawasaki Journal of Medical Welfare (1341-5077) 22巻1号 Page33-45, 2016
3	NICU入院経験のある低出生体重児の親向け集団精神療法プログラムの開発	中島 俊思, 大西 将史, 辻井 正次	心理臨床学研究 (0289-1921) 38巻1号 Page27-38, 2020
4	市町村保健センターにおける短縮版ペアレント・トレーニングのプログラムの有効性についての検討 質問紙及び親子の遊び場面の動画の評定を通して	安井 梨恵, 金 喬, 前田 有依他	関西学院大学心理科学研究 (2187-6355) 46巻 Page77-81, 2020
5	Maternal Confidenceを育む看護介入プログラムの実施・評価	岩崎 順子, 野嶋 佐由美	高知女子大学看護学会誌 (1345-0433) 45巻1号 Page65-74, 2019
6	妊娠期からのペアレンティングプログラム「赤ちゃんの寝かしつけ準備講座」Web教材の開発	佐々木 裕子, 関 健介, 高橋 真理	杏林医学会雑誌 (0368-5829) 49巻3号 Page205-216, 2018
7	小規模市町村における有効な早期発達支援の在り方についての検討 保健センターにおける短縮版ペアレント・トレーニングの実践を通して	安井 梨恵, 米山 直樹	関西学院大学心理科学研究 (2187-6355) 44巻 Page17-22, 2018
8	出産前教室が夫の対児感情及び育児動機に及ぼす影響 乳児とその親との関わりの有無による比較	井上 千晶, 長島 玲子	島根県立大学出雲キャンパス紀要 (2187-199X) 12巻 Page 1-10, 2017
9	診療 高度生殖補助医療後妊娠の産後うつ発症リスクの検討と特徴 エジンバラ産後うつ病自己評価表から考える	櫻井 恭子, 竹田 純	産婦人科の実際 (0558-4728) 67巻7号 Page789-794, 2018
10	産後うつの予防的支援についての検討 妊娠期のピア・サポートを活用して	桑原 さやか, 新井 陽子	母性衛生 (0388-1512) 60巻2号 Page362-369, 2019
11	助産師とソーシャルワーカーからみた若年母の特徴および支援と課題	小川 久貴子, 金澤 貴子, 竹内 道子他	日本母子看護学会誌 (1882-2495) 12巻2号 Page 1-9, 2019
12	若年未婚妊婦への支援 親意識を高めるために	西島 和子, 郡司 怜美	茨城県母性衛生学会誌35号 Page15-19, 2017
13	子育てに対する父親の思いの変化 フォーカス・グループ・インタビューによる父親の語りから	中村 恵美	小児保健研究 (0037-4113) 75巻2号 Page254-260, 2016
14	初めて父親になる人の準備性	デッカー 清美	医学と生物学 (0019-1604) 160巻3号 Page 1-9, 2020
15	乳幼児をもつ父親に対する父親役割を促す教育支援に関する文献研究	東尾 公子, 佐々木 綾子	日本ウーマンズヘルス学会誌 (1347-5894) 19巻1号 Page45-55, 2020
16	第1子の出産に立ち会った育児中の父親の経験	船越 泉美, 佐々木 綾子	日本ウーマンズヘルス学会誌 (1347-5894) 18巻2号 Page27-36, 2020
17	子育て期の父親の想いを明らかにする	阿久津 沙由里, 佐藤 絵美子, 舟木 恵美	福島県農村医学会雑誌 (0911-9426) 60巻1号 Page51-53, 2020
18	初めて父親になる男性が立ち会い出産後にBirth-Review for Coupleを受けることで得られる父親らしさへの効果 無作為化比較試験による検討	松田 佳子	日本看護科学会誌 (0287-5330) 39巻 Page326-333, 2019
19	第1子を育児する父親の対処行動の変化と役割行動の関連要因 対処行動得点の増加群と減少群の比較から	杉山 希美, 小林 和成, 石原 多佳子	愛知県立大学看護学部紀要 (1884-8869) 25巻 Page89-98, 2019
20	初めて親になる男性における、父親としての発達とパートナーの里帰りとの関連	溝口 巴奈, 川田 紀美	日本助産学会誌 (0917-6357) 33巻2号 Page153-164, 2019
21	まもなく父親になる男性における、理想の父親像と夫役割行動実践との関連	豊増 理伽, 川田 紀美子	母性衛生 (0388-1512) 60巻4号 Page534-542, 2020
22	生後3~4ヵ月児をもつ父親の抑うつ傾向と父親になる意識・ソーシャルサポートの関連	松井 春菜, 安積 陽子	北海道母性衛生学会誌 (2185-5250) 47巻 Page 3-11, 2018

NO.	タイトル	著者	出典
23	周産期における父性形成のための支援について 父性が形成される時期と要因	塩崎 萌, 藤澤 弘枝	奈良県母性衛生学会雑誌 (1344-0691) 32号 Page17-19, 2019
24	初めて立ち会い出産をした夫の父親になっていく思いの構造 夫婦に対するパースレビューからの分析	松田 佳子	母性衛生 (0388-1512) 59巻1号 Page189-198, 2018
25	文献にみる父親役割の研究の変遷と課題	松島 泰恵, 柴田 文子, 主濱 治子	松蔭大学紀要 (看護学部) (2432-3330) 1号 Page115-121, 2016
26	育児期早期における夫の親としての適応 (1) 親としての変化と育児・家事参加との関連	神崎 光子	日本母性看護学会誌 (1345-773X) 1巻1号 Page55-64, 2000
27	初産婦の出産をめぐる夫の準備状態	三加 るり子, 松井弘美, 永山くに子	母性衛生 (0388-1512) 61巻1号 Page187-194, 2020
28	父親向けの育児情報の実態とその内容分析	貴俵 怜子, 吉田 倫子	秋田県母性衛生学会雑誌 (1341-5794) 33巻Page44-51, 2020
29	妻が妊娠期にあったときの夫の気持ちと関わり 男性保健師の経験	吉見 雄太, 本田 光	北海道公衆衛生学雑誌 (0914-2630) 33巻2号Page63-69, 2020
30	双子を育てる母親が「母親となっていく」プロセス 2歳未満の子どもの母親の語りから	小池 美香, 津田 茂子, 松澤 明美他	茨城キリスト教大学看護学部紀要 (1883-9525) 9巻1号 Page3-11, 2018
31	切迫早産で入院経験がある初妊婦の親としての思い	宮口 和子	青森保健医療福祉研究 (2435-6794) 1巻Page20-28, 2019
32	母親役割を促進する自己肯定感に影響を与えるポジティブ心理的要因の検討	木村 奈緒美, 堀田 法子	母性衛生 (0388-1512) 61巻2号 Page322-331, 2020
33	Family Centered Careによる母親の心情の変化	小林 宏至, 水澤 香澄, 北村 千章	日本新生児看護学会誌 (1343-9111) 26巻 Page25-31, 2020
34	計画的自宅出産選択女性の親となるプロセス	日隈 ふみ子	保健医療技術学部論集 (1881-3259) 14号 Page19-35, 2020
35	生後6～8ヵ月の乳児を育てる母親のMastery	嶋岡 暢希	高知女子大学看護学会誌 (1345-0433) 44巻2号Page56-66, 2019
36	母親役割獲得を促すための妊娠期からの看護支援 特定妊婦への母親役割獲得理論を用いたアセスメントと看護支援	緒方 あかね	日本赤十字社京都第一赤十字病院医学雑誌 (2433-8346) 1巻1号 Page87-93, 2018
37	妊娠・出産・育児による母親のパーソナリティと母性形成に関する研究	島澤 ゆい, 渡辺 恭子, 川瀬 正裕	小児保健研究 (0037-4113) 77巻2号 Page199-207, 2018
38	体外受精・胚移植によって妊娠・出産した女性の親への適応	宮田 久枝, 阿部 正子	園田学園女子大学論文集 (0286-2816) 52号 Page1-10, 2018
39	産後1ヵ月の日本人の高齢初産婦と若齢初産婦における母親役割の自信に影響を及ぼす要因 (Factors affecting maternal confidence among older and younger Japanese primiparae at one month post-partum) (英語)	Maehara Kunie, Mori Emi, Tsuchiya et al.	Japan Journal of Nursing Science (1742-7932) 13巻4号 Page424-436, 2016
40	GCUで育児指導を受けた母親の母親役割に対する自信の獲得 退院時と児の1ヵ月健診時点の比較	松田 さゆ子, 笛吹 智美, 福家 圭子他	日本看護学会論文集:ヘルスプロモーション (2188-6458) 47号 Page83-86, 2017
41	生後1～2ヵ月の乳児を育てる母親のMastery	嶋岡 暢希, 岩崎 順子, 松本 鈴子他	高知県立大学紀要 (看護学部編) (1344-8269) 65巻 Page1-13, 2016
42	不妊治療後の妊婦への母親役割獲得に向けた妊娠期の支援	松山 久美, 服部 律子	岐阜県立看護大学紀要 (1346-2520) 16巻1号Page15-26, 2016
43	生殖補助医療後に双子を出産した女性が母親となっていく体験 出産後6ヵ月から2～3年頃までに焦点をあてて	藤井 美穂子	日本母子看護学会誌 (1882-2495) 9巻2号 Page1-11, 2016
44	産褥期の母親役割獲得プロセスを促進する看護援助方法に関する研究	大平 光子	千葉看護学会誌 (1344-8846) 6巻2号Page24-31, 2000
45	育児期にある夫婦ペアレンティング 互いの育児の批判をめぐって	清水 嘉子	日本助産学会誌 (0917-6357) 34巻1号 Page103-113, 2020
46	NICU入院児の両親が退院後に印象に残る出来事とその思いの推移 ライフライン分析より	糸井 麻希子, 我部山キヨ子, 川野 由子他	女性心身医学 (1345-2894) 24巻3号 Page306-314, 2020
47	日本人夫婦のためのコペアレンティング (夫婦共同育児) に着目した出生前夫婦教育プログラムの開発 準実験的研究 (Developing a Prenatal Couple Education Program Focusing on Coparenting for Japanese Couples: A Quasi-Experimental Study) (英語)	Takeishi Yoko, Nakamura Yasuka, Kawajiri Maiko et al.	The Tohoku Journal of Experimental Medicine (0040-8727) 249巻1号 Page9-17, 2019
48	育児期の夫婦の協働に向けた妊婦の準備行動	前田 優海, 坂上 明子, 青木 恭子	北海道母性衛生学会誌 (2185-5250) 47巻 Page19-24, 2018
49	生後1週間前後のNICU入院児の両親の児への思い 自由記載を通して	糸井 麻希子, 川野 由子, 中井 葉子他	京都母性衛生学会誌 (1340-4938) 27巻1号 Page17-26, 2019
50	妊娠後期の初妊婦の関わりによる夫・パートナーの親性の発達	野崎 百合子, 刀根 洋子, 水野 千奈津	日本ウーマンズヘルス学会誌 (1347-5894) 18巻1号 Page43-52, 2019
51	NICU入院中の超低出生体重児をもつ両親の親性確立に関する心理的変容	三木 麻衣, 山本 麻矢, 酒井 いずみ他	小児看護 (0386-6289) 42巻9号 Page1198-1202, 2019
52	産後3～4ヵ月頃の母親が妊娠中の夫婦間の役割調整について感じる思い	小寺 洋加, 稲玉 幸江	北見赤十字病院誌 (2188-0220) 7巻1号 Page1-5, 2019
53	妊娠期における夫婦関係と親となる意識との関連	小泉 智恵, 中山 美由紀, 福丸 由佳他	日本生殖心理学会誌 (2189-1982) 3巻1号 Page18-25, 2017

NO.	タイトル	著者	出典
54	出産前の夫婦の育児に関する知識と考え	杉谷 香奈, 大宮 優菜, 小磯 瑞実他	大阪母性衛生学会雑誌 (0285-3655) 53巻1号 Page42-48, 2017
55	初めて親になる夫婦に対する親になるための講座が妊娠期から分娩までの思いや行動に与える影響	徳武 千足, 芳賀 亜紀子, 松崎 ちはる 他	長野県母子衛生学会誌 (1882-9228) 19巻 Page13-22, 2017
56	ハイリスクな状態にある初妊婦およびその夫の親準備性 正常経過をたどる初妊婦およびその夫との比較を通して	松浦 志保, 清水 嘉子	日本助産学会誌 (0917-6357) 30巻2号 Page300-311, 2016
57	保健師による乳幼児を育てる母親への継続支援の特徴	高城 智圭	日本看護学会論文集:ヘルスプロモーション (2188-6458) 46号 Page3-6, 2016
58	子どもの虐待予防における保健師によるハイリスクな母親の育児力を評価する視点	古川 薫, 森脇 智秋, 橋本 文子	小児保健研究 (0037-4113) 76巻2号 Page177-185, 2017
59	保育器で過ごす子どもと母親の距離感に関するNICU看護師の認識 自由記述の分析より	天草 百合江, 山口 桂子, 服部 淳子	日本新生児看護学会誌 (1343-9111) 23巻2号 Page10-17, 2017
60	NICUにおける入院児の父親の親性に対するエキスパート看護師のアセスメントの視点と看護	鶴 有希, 松浦 和代	日本新生児看護学会誌 (1343-9111) 23巻1号 Page9-15, 2017
61	「父親の役割」の概念分析	阿川 勇太, 中山 美由紀	大阪府立大学看護学雑誌 (2423-9046) 26巻1号 Page9-17, 2020
62	夫婦の被養育体験と育児ストレスが親役割達成感に及ぼす影響	白石 知聖, 高橋 靖子	愛知教育大学教育臨床総合センター紀要 (2186-0475) 9号 Page11-17, 2019
63	「妊娠期の母親役割」の概念分析	松尾 笑子, 川田 紀美子	母性衛生 (0388-1512) 60巻4号 Page596-605, 2020
64	日本における母子間の愛着の概念分析	嶋 雅代	福井大学医学部研究雑誌 (1348-8562) 19巻Page1-10, 2019
65	安心して子どもを産み育てられるための助産師援助について 文献からの一考察	甲斐 寿美子	東京医療学院大学紀要 (2432-6119) 6巻 Page58-73, 2018
66	家族同心球環境理論に基づいた養育期家族における父親役割獲得不全への影響因子に関する文献検討	中口 尚始, 本田 順子, 法橋 尚宏	小児保健研究 (0037-4113) 78巻1号 Page59-68, 2019
67	父親役割の概念分析	岡田 麻代, 西村 香織, 村田 美代子他	母性衛生 (0388-1512) 59巻2号 Page398-405, 2018
68	0～1歳児を子育て中の母親の育児ストレスと母親・子どもの属性との関連	井倉 一政, 宮崎 つた子, 柳瀬 幸子	小児保健研究 (0037-4113) 77巻3号 Page261-267, 2018
69	乳幼児の父親・母親における子ども誕生後の生きがい感の変化 生きがい感に対する考え方や生きがいプロセスからの検討	熊野 道子	大阪大谷大学紀要 (1882-1235) 52号 Page121-135, 2018
70	10代で妊娠した女性の母親としてのアイデンティティ形成過程	登内 麻帆	思春期学 (0287-637X) 35巻4号 Page387-394, 2017
71	育児期の夫婦関係研究に関する文献レビュー	田中 恵子	大和大学研究紀要 (保健医療学部編) (2432-5597) 3巻 Page3-9, 2017
72	父親の家事・育児行動についての認識と評価に関する文献概観	加賀美 春香	生涯発達心理学研究 (1884-2860) 9号 Page73-78, 2017
73	自由記述からみた出産準備に対する思い	今井 充子, 及川 裕子, 新道 由記子他	兵庫県母性衛生学会雑誌26号 Page13-21, 2017
74	父親の家事・育児意識と行動の変容とその要因に関する研究 2000年と2011年のデータ比較を通して	寺見 陽子, 南 憲治	Journal of the Faculty of Human Sciences, Kobe Shoin Women's University (2186-3849) 6号 Page119-135, 2017
75	父親の自己受容に関する研究 2000年代初頭を対象として	加藤 望	愛知淑徳大学論集 (福祉貢献学部編) (2185-6060) 7号 Page67-78, 2017
76	妊婦の孤独感 関連要因と母性役割の同一化およびマイナートラブルへの影響	丸山 菜穂子	日本助産学会誌 (0917-6357) 31巻1号 Page23-33, 2017
77	乳幼児の育ちと親子関係に関するアンケート結果報告	福井 聖子, 板金 康子, 田中 薫他	大阪小児科医会会報 (2189-4736) 181号 Page25-28, 2017
78	乳幼児をもつ親の育児感情と自分の役割配分と幸福感の関連	熊野 道子	Journal of Health Psychology Research (2189-8790) 29巻1-2号 Page45-52, 2017